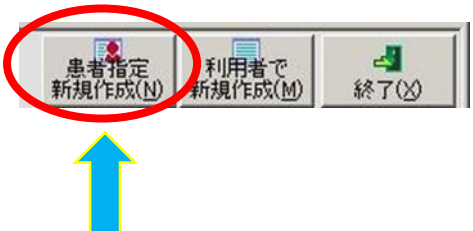
医療安全ニュース 13 期/3 号

エマージングリスクの未然防止

未然防止！？



患者さんが判明している報告はこちら

「患者指定で新規作成」をクリック！

- **エマージングって？**

1. エマージング(emerging)とは「新出現・新登場の」という意味で、特に保険や証券など金融関連で「エマージング○○(市場 など)」として使われています。
2. では「エマージングリスク」とはどういう意味でしょうか。金融庁では、「環境変化等により新たに現れてくるリスクであって従来リスクとして認識されていなかったもの、あるいは、リスクの程度が著しく高まったもの。」として解説されています。
3. 未然防止については、「医療安全ニュース 10 期/6 号 医療安全の 3H について」で解説していました。“人が絡むエラーやミスによる事故の発生パターンを経験則から解析し、事故に繋がる状況を **3H「変化(変更)、初めて、久しぶり」**の 3 つに分類したもの”で,そのような状況を意識し確認して再確認する事によりエラーを発覚させ事故を**未然防止する**、とされているものです。

- **マンホールの蓋問題**

1. 「マンホールの蓋問題」というのを聞いたことはあるでしょうか？大阪大学データビリティフロンティア機構教授(兼任)社会技術共創研究センター岸本充生センター長が「新知見の扱いとその活用」というシンポジウムでご講演されていました。
2. 抜粋要約してご説明します。あるとき道を歩いていたらマンホールの蓋がズレていました。「危ないな」と思ったので、手が泥などで汚れてしまいますが重いマンホールの蓋をなんとか正しい位置に戻しました。ここでひとつ、マンホールの蓋がズレているのに気付かず落ちた人を助けると大変感謝され場合によっては表彰されるかもしれませんが、誰にも気付かれずそっと直した場合は感謝も何もありません。エマージングリスクの「未然防止」というパラドックスであり、本当に未然防止されたら未然防止されたことに誰も気づかないというものです。
3. ここでの“エマージングリスク”については二つの意味があります。一つ目は、「狭義としては従来であれば予期していなかったようなリスク」、二つ目は、「従来予期はしていたが、その頻度や重大さが予想をはるかに上回っていると判明したリスク」とされています。

- **事故報告が未然防止のパラドックスを回避する！？**

1. 患者安全をキープする為の未然防止活動は、日々皆さんが日常的に実践している(いわゆる「セーフティⅡ」)ことは間違いありませんが、上述のような**エマージングリスクの未然防止パラドックスを正す可能性がある、という意味では事故報告が重要な役割を果たします。**
2. 未然防止したことを事故報告(ヒヤリ・ハット)として共有することで、その様な状況をできるだけ発生させないようにしておく、意識して作業しエラーを発覚させ事故を減少させる、仮に事故が発生しても影響を小さくすることなど実践できれば、未然防止のパラドックスを回避させる可能性が大きくなります。そのような意味も含め、これからも、**事故報告の提出**をよろしくお願いいたします。

参考・引用
1) 金融庁 HP. https://www.fsa.go.jp/news/r2/singi/20210216/02_4.pdf. 2022/9/24.
2) 日本学術会議 HP.https://www.scj.go.jp/ja/event/2020/295-s-0910.html.2022/9/26.
画：いらすとや HP より.

職員の皆様へ：お読みになりましたら下記へサインをお願いします。院内ラウンド時に確認させていただきます。